

テーマ別パスファインダー



あなたが選ぶ読書術



✦ パスファインダーとは？

Pathfinder（パスファインダー）とは、探検者／草分け／開拓者の意。レポート作成や論文作成で、何をすればいいのか、どこへ行けばいいのかわからない！そんな人のための助けになるように作成した、学問の「道しるべ」です。

作成日：2013年5月8日
大阪大学 外国学図書館 | 箕面キャンパス |
ラーニングコモンズ るくす | LSチーム

I. イントロダクション

＜ あなたが選ぶ読書術 とは？

いろんな情報が簡単に手に入る時代ですが、「誰も教えてくれないこと」というのも存在します。その一つが、読書術。読書は何となく身に着けるもの—と思いがちですが、それとは逆にたくさんの読書に関する本が出版されています。しかし、そのような本がいつも言うこと、それは「自分に合った方法を見極めろ」。このパスファインダーでは、読書を習慣化するためのいくつかの方法を紹介し、実際にやってみて、自分に合った方法を選んでください。

キーワード：読書術、読書習慣、読書、本、電子書籍

II. 幾つかの対立する読書術

読書術の本の中でも、書き手によって意見が分かれることがある。ここでは、書き手によって異なるいくつかの対立した考え方を紹介し、メリット・デメリットを示す。自分に合っている読み方はどれだろうか。

＜ 全部読むべきか、読まざるべきか

通読(松本 2011)

本を最初から最後まで一冊読むスタイル。ある思想体系をまるまる手に入れたい場合や、読んだ達成感に打ち震えた人はこの方法がよいらしい。絶対に最後まで読みたい本向け。面白い小説などもこの部類に入るだろう。

ゴダール式(永江 2000)

映画監督ゴダールは、一本の映画を最初の 20 分しか見ないらしい。同様に、本は 10~30p 読めばいい。面白くなければ、それ以上読んでやる必要はない、というスタイル。読む本が多い、無駄な読書に費やす時間はない、という人はこちら。無駄な本に早く見切りをつけて、損失を最小限に。大量に借りて情報を得る人や、図書館の本向けの読み方。

＜ 一文一文読むべきか、読まざるべきか

精読

一文一文をじっくり読んでいく方法。よく中・高校の授業などでやるもの。ボールペンで線を引いたり、声に出して読んだりもする。難解な文や、慣れない文体などを読む際は、このようなスタイルが良い。体得される、と言ってもよいだろう。

流し読み（スキヤニング&スキミング）

スキヤニング(Scanning)は、テキストを見渡して情報を探すこと。旅行雑誌やブログを読むように、ななめ読みにより情報を拾っていく読み方。スキミング(Skimming)は、テキストを見渡してその文の大意をつかむこと。「流し読み→精読」(あるいはその逆)というコンビネーションも可。

＜ はやく読むべきか、ゆっくり読むべきか

スローリーディング

本の種類によっては、じっくり一文一文を読んだほうがいいのか、という主張。本の種類によっては読み方を変える必要もある、という意味では発見か。

速読

1980年代あたりから徐々に人気の出てきた読み方。心の中で逐語的に読まない、いくつかのまとまりで読む、眼球を早く動かす(!)などテクニックが必要。まずはそれについての本を読んでみるべきか。

＜ 溜めて読むべきか、必要な本だけ買う/借りるべきか

積読

机の端に今から読むべき本を「積んでおく」というところから。図書館から借りた本であれば自分へのいいプレッシャーになるし、自然と自分の今の興味の対象も一目瞭然。また、写真で背表紙を記録しておくことで、読書リストにもなる。

すぐ読む

読める分だけ借りる/買う、というスタイル。積んでおいてもどうせ読まない常習犯向き。借りてきた本はその日に読むのが一番いいらしい(斎藤 2006)。

III. カスタマイズ：あなたの読書術

下(Ⅳ)に挙げた幾つかの図書から、読書術のエッセンスだけを取り出して、読むという行為の時系列順に並べ替え、チェックリストにしました。あなたが気付いていない読書術はありましたか。あれば、試してみるのはいかがでしょうか(ただし、借りた本ではできないことも含まれています。)

＜ 本を選ぶときにすること

- テーマを決める 今月の私のテーマは〇〇、と決めて、それについての本を借りる。
- 堅い本&柔らかい本 何冊かの本を読むときに、硬さが偏らないようにしよう。
- ノルマを決める 一ヶ月に20冊読む!などと目標を立てる。
- まずは入門書 新しい分野の本を読む際は、入門書を一読。次に参考文献などから広げていく。
- 本代2:飲み代1 一ヶ月に二回飲み会があつて6000円払うなら、本代は12000円。
- 人から借りた本は読めない? そういう人もいます。おとなしく本を買うべき。お気に入りはその限りではない。

＜ 読む前にすること

- アウトプットすると決める 経験を踏まえながら、SNSに書評を書くつもりで読む。引用する文も確保しよう。
- 発想のための読書 知識だけではなく、著者の「発想法」を身に着けるつもりで。
- 時間を決める 一日十五分は本を読む!など具体的に目標を掲げて習慣化する。

＜ 読み始めにすること

- はじめに・目次で内容予測 目次をある程度の時間読んで、そこから内容を予測してから読み始めよう。
- 気になるページから読む 興味・関係のないところ、目次で内容がわかるものなどは読まないのもあり。

＜ 読みながらすること

- 並行読み 何冊かの本を同時に読む。家の中にちりばめたり、場面で変えたりする。
- 本を持ち運ぶ カバンの中には常に本。持ち運ぶ用の新書や文庫本などをストック。
- どこでも読書 トイレの中でも読書。平行読書と組み合わせて、トイレ専用本を置くのもよい。
- 批判・同意しながら読む 考えることも大切。
- ボールペンでマーク 図書館本にはダメ。意見や疑問を書きこんでおけば、後で読み返しやすい。
- メモを取る 借りてきた本などは、メモで代用。引用などを引き出しておくなどもよい。

＜ 読みながら/読んだ後すること

- 印象的な言葉を写してみる 引用などをノートに写す。書く練習にもなるそう。
- 本を図解する キーワードなどを用いて図解する。一冊分というより、気になったところか。

＜ 読んだ後すること

- 読書記録 この本読んだっけ？とならないように。「ブックログ」などを使用するのもよい。
・ブックログ-Web 本棚サービス (<http://booklog.jp/>)
- カード式図書記録 いわゆる「京大カード」を用いたもの。アナログ派にはこちら。
- 愛読書を決める 「どんな本を読みますか」と聞かれた時のために。何度も読み返したくなる本を。
- 本をプレゼントする ソムリエのような感覚で。お返しを期待するのもいいだろう。
- 本(の情報)を交換する 同じような興味のある人がいれば、実物(私物!)や情報の交換を。

IV. 読書術についてもっと知るための本（おすすめ順）

＜ 永江朗(2000)『不良のための読書術』筑摩書房（ちくま文庫）

真面目ないい子は、本を「しっかり」読もうとする。しかし、「不良」はそうはしない。不良は、本を「うまく」読むのである。その方法は？学術書とは必ずしもかみ合わないかもしれない。出版業界の裏話を知りたい人にもお勧め。【理工学図-東館 2F 文庫新書 K||CHI-65】

＜ 外山滋比古(1986)『思考の整理学』筑摩書房（ちくま文庫）

「東大生・京大生に最も読まれた本」というふれこみのあることで有名だが、読書術の本としても読むことができる。特に読書術に触れた箇所については、図付きの解説がありがたい。ここで得たものを、自分の合うように工夫してもよいだろう。【総合図-A棟 3階 学習用図書 141.5||TOY】

＜ 松本幸夫(2011)『あたりまえだけどなかなかできない 読書習慣のルール』明日香出版

読書を習慣としない人には読んでほしい一冊。ただし、読書習慣をつけるルールが100個も書いてあるので、ちょっと多すぎる印象。自分のできそうなところから拾い読み+実践を繰り返すとよいだろう。

【総合図-A棟 3階 学習用図書 019.12||MAT】

＜ 斎藤孝(2006)『斎藤孝の速読塾』筑摩書房

おなじみ斎藤孝が速読の技術や心構えについてまとめた本。目次は多いが、一つ一つが短いために読みやすい。すでに実践していることにも加えて、試したくなること必須。斎藤孝はたくさんの著作があるので、すでに読んだことがある人にはとっつきやすいかもしれない。【総合図-A棟 3階 学習用図書 019.13||SAI】

＜ 佐藤泰正 (1995) 『速読トレーニング』 講談社 (ブルーバックス)

練習問題が豊富な一冊。特に第三回「こんなクセはやめよう」は、速読ができない人にとっては耳が（目が？）痛い。成果のほどはさておき、練習を楽しめる一冊になっている。練習方法だけ盗むのも可。

【理工学図-東館 2F 文庫新書 K||B-1081】

＜ 日垣隆 (2011) 『つながる読書術』 講談社 (講談社現代新書)

細分化されすぎている感じはあるが、読書の目的の種類についての解説は納得。目的に合わせた読み方を会得できれば、読書もぐんと楽になる。【総合図-A 棟 3階 学習用図書 019||HIG】

＜ 丸山純孝 (2012) 『誰も教えてくれない 一流になれる読書術』 明日香出版社

ビジネス書を主に出版しているアスカの一冊。素敵な装丁。ビジネス書との付き合い方についての記述が多いが、第三章は応用が利きそうだ。【理工学図-東館 2F 図書 019.12||MAR】

＜ 池澤夏樹 [編] (2010) 『本は、これから』 岩波書店 (岩波新書)

著名人が短いエッセーを投稿し、まとめたもの。電子書籍時代を目の前に、本の役割を考える一冊。

【外国図-4階新書 020.4||37】

＜ 注意

以上で紹介した方法などをやってみた結果、読書がうまくいかなくなったり、読書の質が低下したりした場合の責任は取ることができません。ご了承ください。もしそのような症状が出た場合は、直ちに今までの読書スタイルに戻ることをお勧めいたします。

✧ [パスファインダーの凡例]

✧ 図書情報は以下の順に表記しています。(主に論文の参考文献に使われている書式です)
著者名 (出版年) 『本の名前』 出版社名, 翻訳者名 (あれば)

✧ 説明の最後に、【 】で貸し出し可能な図書館と配架場所、請求記号を記しました。

総合図 → 総合図書館 (豊中キャンパス)

生命図 → 生命科学図書館 (吹田キャンパス)

理工学図 → 理工学図書館 (吹田キャンパス)

人図 → 人間科学研究科図書室 (吹田キャンパス)

外国図 → 外国学図書館 (箕面キャンパス)

外国図-雑誌 → 直近1~2年に出版されたものは3階雑誌コーナー、バックナンバーは1階書庫

電 → 電子ジャーナル、電子ブック

※雑誌、電子ジャーナルは、すべての巻号が利用できるとは限りません。

✧ 検索を容易にするために、ISBN (各図書固有の識別番号) や ISSN (各雑誌固有の識別番号) を記している場合もあります。

✧ 外国学図書館を中心に紹介していますので、記載している場所以外でも貸し出し可能な場合があります。図書館各階にある検索端末で確認するか、カウンター/LS デスクまでお尋ねください。